

2018年度(平成30年度)

事業計画

2018年(平成30年)3月31日

学校法人 上智学院

はじめに

学校法人上智学院は、上智大学が創立100周年を迎えた2013年に「叡智が世界を繋ぐ Sophia・Bringing the World Together」というミッションを掲げ、中長期の将来発展構想である「グランド・レイアウト2.0（2014年度～2023年度）」（以下GL2.0）を策定し、教育研究環境の改善に努めて参りました。GL2.0のこれまでの成果の具体例として、大学のガバナンス改革では、上智大学長の選任方法を改正し新規則に基づく学長の選任を行いました。教育研究面では、グローバル化を推進し、上智大学の海外協定校数は300校を越え、交換留学の受入数、派遣数ともに増加しました。中等教育部門においても海外のイエズス会学校等との連携を強化し、グローバル人材の育成に努めております。また、2017年4月にイエズス会教育推進センターが発足し、学院が設置するすべての学校が連携してイエズス会教育を深化させるとともに、その精神を身につけた人材育成に力を注ぐ環境が整いました。

GL2.0 は、2019 年度から後半の第二期に入りますが、これまでの実績と本学院の現状と課題を明確にした上で見直しを進めて参ります。以下に提示する 2018 年度事業計画は、その基礎となるものです。本学院は、“Men and Women for Others, with Others” の教育精神に則り、その伝統と実績を更なる成果として発展させるために、国内外の環境変化を見据えながら、各校の今後の発展を支えるため、本事業計画の推進を図って参ります。

I. 事業計画

A. 上智学院の運営基盤に関する計画

1. 全体計画

(1) 上智学院全体の意思決定過程を見直し、企画立案の強化と迅速化を図る。

- 学長・校長支援体制の強化
- 教学系役職者の権限・責任範囲の明確化
- 会議体の整理を中心とした教学系の意思決定プロセス整備

(2) 適切な PDCA サイクルを整備する。

- 認証評価機関の認証評価結果を受け、学長の下での大学全体として組織的な内部質保証検証体制の検討
- 教学監査構築に向けた体制の検討
- 質保証に重点を置いた、自己点検・評価体制の構築
- 学院全体を網羅するリスクマネジメント体制の定着に向けた PDCA サイクルの継続実施

(3) IR (Institutional Research) 機能を整備する。

- 教学データウェアハウス (DWH) システムの活用と管理運営情報との連携
- 既存学生調査の統合と課題設定型調査の実施
- IR 分析成果の学内共有の促進と、各校 Web ページ上での積極的発信（多言語ファクトブックならびにインタラクティブファクトブックの作成・発信）

(4) ステークホルダーとの連携を強化する。

- 卒業生データベースの整備
- 母国へ帰国した外国人留学生の連絡先等情報の収集とネットワークの構築
- ソフィア会との連携強化（データベース統合等）

2. 組織・人事計画

- (1) 教員組織及び運営（事務）組織の再編成を実施する。
 - 教学組織評価にかかわる制度の概要の企画・立案
- (2) 教員のパフォーマンス向上を図る。
 - 教員の採用、昇任及び適正配置の検討、非常勤講師にかかわる業績確認や授業評価のあり方の検討
- (3) 教員・教学組織評価制度を導入する。
 - 教学組織評価のあり方の検討及び教員評価（個人）制度の改善策の検討・実施
- (4) 教員人事給与制度を改定する。
 - 教員評価（個人）の継続実施及びトライアル導入後の運用改善策の検討
 - 教員特別研修制度のあり方の検討
- (5) 職員のパフォーマンス向上のための施策を検討する。
 - 「同一労働同一賃金」を踏まえた職員の適正配置のあり方の検討
 - 専任職員の職務遂行能力及びモチベーション維持・向上を目的としたSDの企画・実施
- (6) 人件費依存率を改善する。
 - 2018年度事業計画の施策推進と連動
 - 教職員にかかわる労務管理の課題の検討
- (7) 多様な人材を育成するとともに、組織を活性化する。
 - SGU 構想調書及び女性活躍推進法の一般事業主行動計画に掲げた女性教職員にかかわる目標値の達成
 - グローバル人材、障がい者にかかわる目標値の達成
 - 教職協働プロジェクトを通じた経営課題への提言体制の確立
 - ワーク・ライフ・バランス施策（有給取得促進等）の実施
 - メンタルヘルスケアにかかわるケア体制の拡充

3. 財政計画

- (1) 財政基盤強化のための諸方策を実施する。
 - 「選択と集中」の議論の深化
 - キャンパス整備計画の進捗に合わせ、第2号基本金組入計画修正の実施
 - 人事計画・教育研究計画予算枠の設定
 - セグメント別及び目的別の収支結果に基づく諸政策の提案
 - 資産運用方針の不断の検証
 - 事業会社へ未だ移管されていない業務の移管実施。移管に伴う経費節減とサービス・質の向上。
 - 事業会社による新規事業の立ち上げと、事業の深耕による利益の追求。
- (2) 収入源の安定的な確保を図る。
 - 高度なリスク管理に基づく安定的な資産運用収入確保
 - SOPHIA 未来基金を中心とする寄付募集活動の展開による教育・研究活動推進財源の確保
- (3) 効果的支出を実現する。
 - 目的別予算体系の見直しに基づく、2019年度予算編成
 - 2019年度予算編成に向けた新たな特別予算制度の構築
 - 管理経費削減策（共通経費の按分基準の見直し）と人件費抑制（＝教育研究経費増加）の議論を深化

○予算配分基本モデルの策定

4. 施設・設備計画

(1) 各キャンパスの有効活用と施設設備の整備計画を策定する。

○信濃町学生寮の建設

○2、4、9、13号館改修

○案内表示や掲示の日英併記化の実施

○真田濠グラウンド改修実施設計（一部工事着工）

○中高キャンパスに関する維持保全計画策定（一部工事着工）

(2) 新キャンパス取得の可能性を検討する。

○当面の共栄ビル跡地活用計画の策定（当初計画建物の建設時期延期に伴う当面对応）

5. ICT計画

(1) ICTによる教育研究及び学生支援への新たな価値を創出する。

○3号館に無線LAN用アクセスポイントを設置

○対外接続回線の切り替えを実施

○事務系基盤システムの更新計画の策定と予算化

○掲示板機能の代替となるグループウェアの選定と導入計画案の策定

○業務システムの開発・更新

・募金システム、学生用健康診断システム、公開学習センターシステム、留学生管理システム、証明書発行サービス等

(2) 経営戦略策定のためのツールとしてICTをより効果的に活用する。

(3) ICT環境の整備推進のための組織・運営体制の再構築とシステム監査体制を構築する。

○情報セキュリティ対策基準の策定

○情報セキュリティ教育の継続実施

B. 上智学院が設置するセンター、研究所の実施計画

1. カトリックイエズス会の教育理念に基づき、上智学院におけるイエズス会教育の深化のため、特色ある学術研究の遂行と人材育成、及び研究成果の学内外への発信を行う。

(1) イエズス会教育推進センターを整備する。

○イエズス会教育の根拠となるイグナチオの霊性とイエズス会教育の基礎及び関連する資料・文献の国内外からの収集と多様な媒体での整備

○教職員研修規程の策定、並びに研修制度を支える財政基金の整備

○「イエズス会教育推進センター」ウェブサイト、SNSの構築

(2) 学院の設置する研究所（キリシタン文庫、アジア人材養成研究センター）の活動を推進する。

① キリシタン文庫の研究活動の促進

○キリシタン史研究に資する資料の収集、整理、出版、研究会の開催

○貴重資料のデジタル化

○キリシタン関係の外部シンポジウムへの協力

② アジア人材養成研究センターの研究活動と人材養成の推進

○アンコール・ワットに係る講演会、公開講座の開催、ホームページの多言語化などの情報発信

○カンボジアでのソフィア・ミッションを通じた人材養成

○アンコール・ワット西参道修復工事ならびに募金活動の推進

C. 上智大学の実施計画

1. 教学計画

(1) 教学改革にかかる基本方針を策定、明示する。

(2) 学士課程（学部）教育の質を保証する。

○統一的なコード表に基づいた科目ナンバリングの実施

○単位互換システム導入のための検討体制整備

○公表した3つのポリシーに基づくカリキュラム検証体制の整備

○教養教育のあり方の検討

○適正科目数を考慮した、一律削減に代わる新たな開設科目整理案の策定

○クォーター科目の取扱いの決定

○反転授業、オンライン授業の導入について検討開始

○教室配当ルール見直し

○FD 活動の学内における情報共有の実施

○英語での授業実施のためのFD研修開催

(3) 大学院教育の高度化と教育組織の再編成を実施する。

○各専攻の入学定員数について大学院委員会での検討

○コースワーク、リサーチワークの検証と研究科連携の検討

○国外の高等教育機関との連携推進と新プログラムの開拓

(4) グローバル化を推進する。

○ Semester・クォーター併用制導入に係るカリキュラム・履修モデルの検討、確定、公表

○ 学生のニーズ、学科カリキュラムを考慮した、産業界・国際機関・海外大学等との連携科目、及びインターンシップ科目における実習先の増加

○ 英語（外国語）による科目数の増加

○ 現状の短期プログラムを Semester・クォーター併用制で効果的に機能させるための準備開始

○ 海外大学のニーズに合わせたオーダーメイド型のプログラム運用ノウハウの確立による受入数の増加

○ 留学生が参加しやすいインターンシップ科目の開発

○ 留学生に対する既存の日本語カリキュラム検証と、受け入れ状況に対応した適正なプログラムの検討

○ Sophia Integration Program の方針や内容についての検討

○ 特に外国人留学生に対する IR を活用した入学から卒業までの学生パフォーマンス変化のデータベース化と分析実施の検討

○ 新規英語コース開設のための具体案（コンセプト・カリキュラム・人事案等）の作成

○ 秋期公開講座での「大学教職員のための日本語」の開講

○ 交換留学協定校の拡大

○ Semester・クォーター併用制を利用した留学プログラムのラインナップの見直し

○ 単位修得を伴う休学留学の制度の確立と、2019年度からの派遣開始に向けた学生周知の開始

○ 派遣学生向けの安全管理教育の見直し・強化

○ 海外有力大学との連携強化に向けて、ダブルディグリー協定締結交渉の開始

○ 交換留学生受入及び派遣によるアジア・アフリカ地域との学生交流促進

○ 2017年度で補助が終了する SAIMS プログラムの継続と、円滑で安定的な実施方法の確立

○ 学部長会議、大学院委員会での早期卒業制度、長期履修制度拡大の検討

- (5) 国内外の教育機関・支援者(組織)との連携を強化する。
- 海外での入試広報戦略に基づいた、海外拠点を活用した新規海外指定校の開拓
 - 本学と西江大学、香港城市大学との3ウェイプログラムについて各大学の協力による情宣の継続
 - 既存の海外拠点を利用した戦略的な国際広報の強化
 - 拠点を通じて構想する教学計画(サテライトプログラムやインターンシップの構築、協定校との連携など)の立案と拠点の役割・機能強化検討の継続
- (6) 高い資質を有した学生を安定的に確保する。
- 2020年度からの大学共通テスト導入など文部科学省の高大接続改革を見据えた入試制度改革の推進
 - 優秀な学生の獲得のための、カトリック学校との連携強化、指定校制推薦入試の指定校を見直し、及び各高校との連携緊密化の推進
 - 入試広報戦略の見直しによる志願者数の安定的確保

2. 研究・学術交流計画

- (1) 国際的評価を受ける重点的研究を推進する。
- 私立大学研究ブランディング事業への継続的な申請と採択事業の円滑な遂行
 - 研究評価委員会による研究活動のPDCAサイクルの実現
 - 上智大学学術研究特別推進費・重点領域研究等、大学の支援下にある研究プロジェクトの研究成果及び成果発信に関する効果検証
- (2) 学術交流を促進する。
- 学内外の共同研究プロジェクトの立ち上げ支援等の推進
 - 学術交流・研究全般にかかるコンプライアンスの強化(研究倫理教育、安全保障貿易管理、等)
- (3) 研究所・センターの再編成による研究体制と研究支援体制を確立する。
- 研究所間の共同研究及び共催シンポジウム等の促進
 - 常設研究部門研究単位にかかる研究活動状況の把握・評価と研究活性化策の実施
- (4) 研究のための資金を安定的に調達する。
- 外部研究資金の申請数及び採択数増加
 - 「科研費改革」の学内周知と申請の推奨及び支援
 - 間接経費を活用した研究推進にかかる専門人材の雇用
- (5) 産官学連携を推進する。
- 全研究分野にかかる研究シーズの幅広い把握と積極的かつ有効な公開
 - 本学における産官学連携ロールモデルの「みえる化」
- (6) 知的財産の管理と利用のための体制を構築する。
- 顧問弁理士との連携による活用を見据えた戦略的な特許出願
- (7) 研究成果の国際的な情報発信力の強化と社会還元を推進する。
- 私立大学研究ブランディング事業のブランディング戦略に基づく情報・成果発信
 - 研究成果発信に関する、国際社会や産業界への組織的・計画的アプローチの実施
 - 研究成果発信にかかる学内助成制度の見直しと拡充
 - 上智大学学術情報リポジトリを利用した、学内の各種研究成果の積極的収集・蓄積・発信

3. 学生の学修支援・学生生活支援計画

(1) 学修支援を推進する。

- 9号館地下カフェテリアにおける、学生の主体的取組を促すプログラムを実施
- 障がい学生に対する学修支援の一環として、ユニバーサルデザインに基づいた、キャンパス整備の推進
- 中央図書館の日曜・祝日の館外貸出サービスのテスト運用

(2) 学生生活を支援する。

- 学生相談の体制整備（SDの充実、グローバルキャンパス整備）の推進
- Sophia Student Integration Commons(SSIC)におけるピアサポート体制の充実
- 優秀な人材の積極的確保とグローバル化のさらなる推進に向けた奨学金制度の充実
- インターンシップ（課外）制度の整備と充実
- 留学前後、留学中の就職支援を強化
- ガイダンスや企業説明会等の就職関連プログラムの充実
- 年間を通した公務員試験対策講座(有料)の開講
- 外国人留学生の就職支援及び進路状況把握
- 障がい学生に対する就職支援の強化
- 2019年ラグビーW杯、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア人材育成プログラムの充実
- 祖師谷国際交流会館を生活寮としての機能充実に加え、教育寮としての付加価値を増すためのプログラムを企画・実施する。
- 開寮に向けて新国際寮の運営方針を決定
- 禁煙教育の強化

D. 上智大学短期大学部の実施計画

1. 全体計画

(1) 短期大学部の中・長期的な組織・教育体制の整備計画を策定する。

- 入学定員の確保と入学者の質の向上
- 将来構想の決定を目指す。決定後、実行のためのタスクリストを作成し、実現に向けた調整

(2) 短期大学部と上智大学との連携を強化する。

- 特別編入学語学基準の4技能化を意識した科目編成

2. 教学計画

(1) 建学の理念に基づいた人間教育と、グローバル化に対応する教育をさらに推進する。

- 建学の精神や教育理念、キリスト教的価値観に基づく人間教育を強化
- 派遣短期留学に関して、海外大学との協定締結を推進
- 短期留学、スタディツアーなどの海外派遣学生数の増加

(2) 短期大学基準協会評価観点を活用したPDCAサイクルを確立し、アセスメント・ポリシーに基づきPDCAサイクルを継続的に運用することにより、教育の質の向上と質保証を推進する。

- 授業内試験のフィードバック方法の明確化
- TOEIC-IPテストの年間伸び率の向上
- IRによる内部質保証の可視化
- 2021年度短期大学基準協会認証評価受審を見据えた中間期の自己点検・評価報告書作成

(3) 英語能力を強化する教育を一層推進する。

○中長期的な組織・教育体制整備計画の決定により、新カリキュラムを検討する

3. 学生支援

(1) サービスラーニングセンターを「学生総合支援センター」へと転換し、学生に対する学修支援、生活支援、進路指導の総合化を図る。

○学生の希望する進路実現力の強化

○進路未決定者数、休退学者数の減少に向けた施策の実施

○外国人留学生向けの就職説明会の開催

(2) 学生支援の一環として、奨学金財源確保に努め、制度の充実を図る。

○大規模災害被災学生支援、ミクロネシア短期大学受入れ学生支援の継続

○日本学生支援機構奨学金制度の活用

○創設したジェラルドバリー賞の募金継続

4. 地域連携

(1) サービスラーニングによる日本語・教科支援ボランティア、英語教育ボランティアを一層充実させ、地域への貢献と地域との連携を強化する。

○サービスラーニングに関する関連授業、ブラッシュアップ講座、ポートフォリオの活用による学びの深化と活動の質保証

E. 上智社会福祉専門学校の実施計画

1. 全体計画

(1) 社会福祉専門学校の将来構想を推進する。

○将来構想案を立案する

○教員評価制度導入に向け、評価項目を設定する。

2. 教学計画

(1) 上智のミッションを基盤とした事業を推進する。

(2) 入学者の安定的確保のための取り組みを強化する。

○入学志願者の確保と入学者の質の向上

○正規以外に無資格現任者及び有資格者を対象としたキャリアアップ支援を推進

3. 学生支援

(1) 資格取得のための指定養成機関としての充実を図る。

○2018年度国家試験結果を精査のうえ、サポート体制を強化して、前年度比で合格率を向上させる。

F. 生涯学習の実施計画

○運営組織の再編、規程改正の効果検証

○公開講座事業収支の改善に寄与する現行制度の見直しと実施

○公開講座業務の効率化・委託化への着手

○ICTを利用した講座についてのヒヤリング及び視察（継続）

○2019年度神学講座WEB受講開始に向けたシステム開発着手

○教養実務講座における新規講座の開拓

○語学講座における新カリキュラムの策定

- 教育研究組織、及び大学事業会社等との協力講座の実施
- 語学コーディネーターと連携した再編の策定
- 公開講座を通じた情報発信、地域貢献プログラムの実施
- 語学講座再編案の策定及び実施にむけた各種準備
- 連携候補機関の情報収集、ヒアリングの実施、新たな連携スタイルの提案、及び候補機関との関係構築

G. 中等教育の実施計画

1. 中等教育部門共通事項

(1) 中等教育部門共通事項

- 高大連携、研修体制整備などの施策を含むイエズス会教育推進センターの活動強化
- 中等教育検討専門委員会にて各校に共通する課題を中心に、2019年度以降の中長期計画を策定
- 法人合併によるスケールメリットを活かした契約等の検討
- Ignatian Student Leadership Forum の開催

2. 教育プログラム

(1) 栄光学園中学高等学校

◆ 教育の充実

- 「ボストンカレッジサマーリーダーシッププログラム」の内容充実、事前学習の実施
- 教職員研修会にて新学習指導要領について集中的に検討
- 広報活動において、本校生徒通学区域全体を見通した、学校説明会の開催計画の策定を継続
- 高校生が参加できる国際プログラムに上智大学生とともに参加

◆ 生徒支援

- スクールカウンセラーの増員も視野に入れた、教育相談態勢の充実
- 教科単位もしくは各教員の判断により必要に応じて補習や個別指導が実施できる体制整備

◆ 財務・管財部門

- 教員室のIT化も含めた業務環境の見直しを検討
- 普通教室や特別教室への導入機材を検討し、予算の範囲で段階的に実施
- 校地内の要整備箇所への対策計画を策定し、予算措置を検討
- 新校舎竣工後の中長期的な施設設備計画の実行
- 奨学金支給制度ならびに寄付金募集制度のさらなる充実を検討

◆ 人事部門

- チャプレン派遣契約の継続
- 新任教員との「イエズス会教育の特徴」講読研修の継続
- 事務部門の人員交代時期に合わせた人事計画の策定と実施
- 人事諸規程、管理諸規程（細則）の整備

(2) 六甲学院中学校・高等学校

◆ 教育の充実

- 新教育課程へ対応するため、ネイティブによる少人数制リスニング授業の実施
- 難関大学推薦入試への対策として2017年度に設置した新部署の本格運用かつ新カリキュラムに向けた授業改善
- インド訪問・ニューヨーク研修の危機管理対策として上智大学と連携し、対応マニュアルを作成

◆ 生徒支援

- 学年主任会と特別支援教育部門をより密接化するため、生徒支援部を新設
- 中1、中2の成績不振者に夏期補習を義務付けるよう教務内規を改訂

◆ 財務・管財部門

- ICT化に対する教職員の要望事項の取りまとめ及び技術情報の収集と共有を行い、予算も含めた中期的ICT化プランを策定
- 第3グラウンドに体育棟を建設
- 別館（旧修道院）の改修

◆ 人事部門

- 授業評価と授業のリフレクションの推進
- 人件費削減について具体策の決定

(3) 広島学院中学校・高等学校

◆ 教育の充実

- 「大学入学共通テスト」を見据えた英語科On line speaking training 実施学年の拡大
- リーダー養成海外プログラムへの生徒派遣の拡大の可能性の検討
- 安定した新入生数確保のための受験者数確保の対応
- オープンスクール開催や塾等への広報活動の継続

◆ 財務・管財部門

- 教務システム導入・整備の検討
- インターネット利用環境の安定化実現のための整備
- ザビエル体育館の屋根防水補修工事、理科棟空調機器の取替工事
- イエズス会学校に相応しい奨学金制度の強化
- 校地内の防災対策の推進

(4) 上智福岡中学高等学校

◆ 教育の充実

- 進級規程(中学)の改正
- ループリック(卒業時の生徒の姿の自己評価)の授業への活用及び学校行事への反映

◆ 財務・管財部門

- 教務システムの導入検討
- 中学棟教室空調設備の更新

Ⅱ. 2018 年度予算編成の基本方針

「上智学院グランド・レイアウト2.0」に示された重要課題を推進するためには、限られた財源の最適配分（予算化）が必要です。

重要課題に基づく新たな教育研究の展開や、キャンパス整備計画（中等教育部門を含む）に基づく教育研究環境の整備改善など、財政的にインパクトのある新規課題を抱えている現状においては、最適化のために、新規プログラムに対する適否判断だけでなく、既存事業とその予算をいまいちど厳正に見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれることなく、適正かつ公正な必要最低限の予算を編成及び執行しなければなりません。

また、学校法人の収支は均衡していることが求められ、特に、本学院においては当年度収支差額の均衡に努め、財政の健全化を図ることが喫緊かつ重要な課題です。その重要課題への方策と、教育研究充実のための予算措置という、相反するとも言える両者への効果的対応を鋭意検討し、具体的な取り組みを推進していくことを、学院全体の共通認識といたします。

1. 事業計画に則った予算立案と適正執行

全教職員が、学校法人上智学院の重要課題と財政状況への理解を深め、事業計画に則った適正な予算を立案し、公費を適正に執行することの重要性を強く再認識する必要があります。

予算執行にあたっては、執行金額の多寡にかかわらず、常に合规性・経済性・有効性の観点から個々の取引を厳正に行うこととします。

2. 重要課題への予算の重点化

「上智学院グランド・レイアウト2.0」に示された重要課題に係る教育研究活動及び基盤整備等の諸施策に対して重点的に予算を配分します。

3. 収支改善による収支均衡の実現

業務の見直しによる効率化をさらに徹底し、収支の均衡に一層努めます。

また、各事業の収支を的確に把握し、不採算事業への具体的対応を引き続き検討することとし、収入増加策及び支出削減策を金額の多寡にかかわらず推進することとします。

4. 経費削減と最小予算による最大効果の発揮

教育・研究活動に係る経費は、新たな取組を積極的に推進するため、既存事業の経費削減を「聖域」なく検討・実施することとします。

また、限られた予算の効果的な使用と恒常的経費の削減にさらに努め、より少ない予算でより大きな効果を得られるよう創意工夫することとします。

5. 人件費依存率の低減

人的資源の活用を図り、業務の合理化・効率化を推進し、上智学院の事業活動収支計算書における人件費依存率の低下を図ります。

6. 学費収入の確保

文部科学省の入学定員管理の厳格化や18歳人口減少の顕在化により、学生数の減少が見込まれる中、学院の持続的発展の財政的根幹を成す学費収入を安定的に確保します。

7. 外部資金の積極的な獲得

外部資金の獲得を積極的に進め、新たな取組みを含め諸活動に必要な財源は自ら確保することを原則とします。

寄付募集活動は、これまで培ってきた募集活動の基盤強化を継続して進めるとともに、周年募金

により設立された基金及び奨学金等の学生支援制度の拡充を図るために、さらに積極的に寄付金募集活動を教職員全員で展開します。

8. 研究費制度の実績評価と研究費配分方式の見直し

研究費制度（学術研究特別推進費及び個人研究成果発信奨励費）は、2017年度にこれまでの成果評価を行い、評価結果を踏まえ、2018年度以降、研究費制度と予算の最適化を行います。さらに、個人研究費、常設研究部門等の各種学内研究関連予算については、研究成果等実績に基づき配分する方式を検討し、研究活動の活性化と外部研究資金の導入促進を図ります。

9. 管理会計手法の導入と選択と集中の推進

安定的な財政基盤を構築し、「上智学院グランド・レイアウト2.0」に示されている重要課題を円滑に推進するため、事業目的別の予算申請を実施し、中・長期財政計画に反映させるとともに、事業別、学部等セグメント別収支状況の適正な把握により常に評価・見直しを行うことにより、選択と集中を進めます。

2018年度事業活動収支予算（学院）

（単位：千円）

		科 目	2018年度予算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	19,021,592
		手数料	1,194,746
		寄付金	433,073
		経常費等補助金	3,743,976
		付随事業収入	710,527
		雑収入	1,157,634
		教育活動収入計	26,261,548
		支出の部	人件費
	教育研究経費		9,213,085
	管理経費		1,950,853
	教育活動支出計		26,390,253
教育活動収支差額			△ 128,705
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	700,212
		その他の教育活動外収入	100,000
		教育活動外収入計	800,212
	支出の部	借入金等利息	142,720
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	142,720
教育活動外収支差額			657,492
経常収支差額			528,787
特別収支	収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入（施設設備指定分及び現物寄付含む）	211,851
		特別収入計	211,851
	支出の部	資産処分差額	545,526
		その他の特別支出	0
		特別支出計	545,526
特別収支差額			△ 333,675
【予備費】			180,600
基本金組入前当年度収支差額			14,512
基本金組入額			△ 2,266,924
当年度収支差額			△ 2,252,412
前年度繰越収支差額			△ 16,785,729
翌年度繰越収支差額			△ 19,038,141
(参考)			
事業活動収入計			27,273,611
事業活動支出計			27,259,099
事業活動収支差額			14,512

※ 5月末の収支予算確定後に差し替え。同時に資金収支予算書を公表。

結 び

上智学院は、グランドレイアウト 2.0 に基づき改革施策を推進しております。少子高齢化をはじめとする社会構造の変化、社会経済のグローバル化など激動する時代の中にあっても、今後もこれらに柔軟に対応するとともに、本学院の教育精神である“Men and Women for Others, with Others”（他者のために、他者とともに）をよりどころとして、学院の伝統と実績を発展させるために、国内外での環境変化を見据えながら、教育、研究、社会貢献を通じて、その使命を果たしてまいります。